

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高見 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

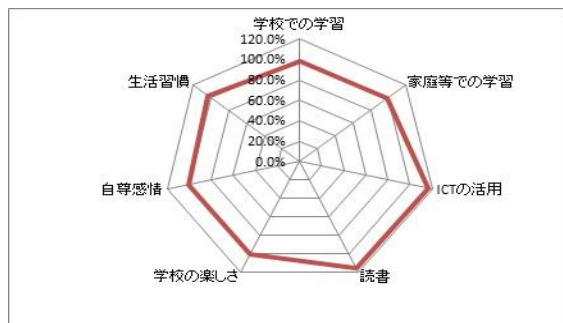
(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的には平均を上回っているが、「表現の技法について理解する」趣旨の問題においては課題があり、今後さらに力を付けていく必要がある。短答式の問題の一部で無回答率が高いものもあった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・根拠を示して自分の考えを書くなどの記述式の問題。	
	努力が必要な問題	・表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する問題。	
数学	全体的な傾向や特徴など	全領域にわたって全国平均を上回っている。「数と式」や「関数」の領域では十分な力が付いているものの、「データの活用」の領域については今後さらに力を付けていく必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・一次関数の変化の割合に関する問題や、確率の問題。	
	努力が必要な問題	・筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する問題。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的には平均を上回っているが、「粒子」を柱とする領域や、「地球」を柱とする領域の問題の正答率が低い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・気圧、気温、温度の変化をグラフから読み取り、雲の種類と関連づけて適切な天気図を選択する問題。	
	努力が必要な問題	・おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・全国平均と比較して、起床や就寝時刻の規則正しい生活習慣が身に付いている割合が高く、平日にテレビゲームや携帯電話、スマートフォンでのゲームをしない割合が高い。また、学校以外の時間においても家庭等で学習する習慣が身に付いている割合が高い。 ・読書が好きな生徒が多く、不読率も低い。 ・パソコンやタブレット端末等のICT機器は勉強の役に立つと考えている生徒が多い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・基礎的、基本的な学力は身に付いているが、問題の領域や類型によって無回答率が高いものがある。朝自習や小テストの取組等を継続して行い、粘り強く課題に取り組む態度を育成する必要がある。 ・自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫する生徒の割合が低く、授業の中で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会を増やす必要がある。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・地域や社会をよくするために何をすべきか考えると回答した割合が高く、実際に地域の行事に参加する生徒の割合も全国平均と比較して高い。シビックプライドの醸成をめざした取組をより一層充実させていく。 ・豊かな自然に囲まれた生活環境でありながら、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあると回答した生徒の割合が低く、学校行事や総合的な学習の時間を活用して自然体験学習の機会を増やす必要がある。
--